三菱UFJリサーチ&コンサルティング
http://www.murc.jp

2013 年 5 月 28 日

調査レポート

グラフで見る東海経済（2013 年 5 月）

【今月の景気判断】

東海経済は持ち直している。ただ、生産は自動車や航空機関連の減少が響き、増加が一服している。海外景気の回復により輸出は持ち直しているが、米国や東南アジア向けが堅調な一方、中国向けは伸び悩んでいる。個人消費は、高額消費の好調が続くが、食品や日用品への支出が弱含み、総じて横ばいとなっている。雇用環境は、求人倍率が改善傾向にあるものの、常用雇用の改善は一服している。企業業績は改善しているが、設備投資は慎重な動きが続いている。公共投資は増加基調であるが、住宅投資は横ばい圏で推移している。

今後も、世界経済の緩やかな回復とともに輸出は持ち直しが続き、生産も高水準での推移が続くとみられる。4 月以降、公共投資も増加基調が明確となり、住宅投資の増加も見込まれるが、雇用･所得環境への波及が鈍く、生産も頭打ちとなってきたため、景気の急速な持ち直しペースは緩やかになると予想される。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	↗	輸出	↗	☁	↗
個人消費	→	☁	→	輸入	→	☁	→
住宅投資	→	☂	↗	生産	↗	☀	→
設備投資	→	☁	→	雇用	→	☁	→
公共投資	↗	☂	↗	賃金	→	☂	↗

(注) 1.3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2．シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

･世界景気～米中景気の先行き、世界的な追加金融緩和による株高の持続力、ＴＰＰ交渉の行方
･企業活動～アベノミクスによる円安･株高の影響、大型の補正予算の執行、中国などアジア向け輸出の動向
･家計～雇用･所得環境改善の広がり、株高が消費に与える影響、円安に伴う食品･エネルギー等の物価上昇

～本レポートについては最終ページ 【「グラフで見る東海経済」の見方】 参照

三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社
エコノミスト 内田俊宏（chosa-report@murc.jp）
〒460-8621 名古屋市中区錦 3 丁目 20-27
TEL：052-203-5321

ご利用に際しての留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

【各項目のヘッドライン】

項目	4月のコメント	5月のコメント	ページ
1．景気全般	持ち直している	持ち直している	3～4
2．生産	増加している	増加が一服している	5～7
3．雇用	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	7～8
4．賃金	下げ止まりつつある	横ばい圏で推移	9
5．個人消費	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	10～11
6．住宅投資	緩やかに持ち直している	横ばい圏で推移	12
7．設備投資	増加が一服している	増加が一服している	12～13
8．公共投資	増加基調で推移	増加基調で推移	13
9．輸出入	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	14～15
10．物価	消費者物価は小幅下落	消費者物価は小幅下落	15
11．金融	預金は増加、貸出は減少	預金、貸出ともに増加	16
12．倒産	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数、負債総額ともに減少	16

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）
（＊）参考資料：「グラフで見る景気予報」　→　http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan

【前月からの変更点】

2．生産

3月の東海3県の鉱工業生産指数は前月比－0.5%と4ヶ月ぶりに低下した。自動車（－1.8%）、自動車部品（－4.6%）航空機体部品（－26.9%）を含む輸送機械（－5.4%）が大きく減少している。

4．賃金

2月の一人当たり現金給与総額は前年比－0.2%とほぼ横ばいまで改善した。3月の家計調査の勤労者世帯の勤め先収入（同＋7.4%）と定期収入（同＋4.4%）はいずれも増加している。

6．住宅投資

3月の東海4県の住宅着工戸数（季調済年率）は前月比－0.3%と小幅ながら2ヶ月連続で減少した。前年比では＋4.8%の8663戸と7ヶ月連続で増加している。

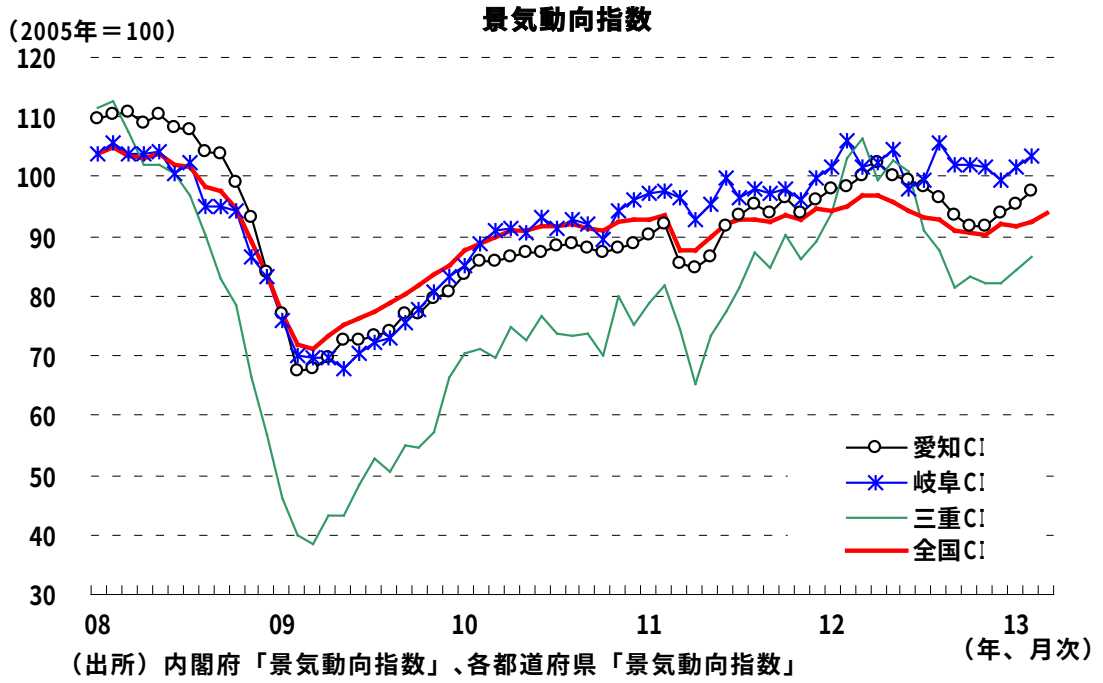
【主要経済指標の推移】

経 済 指 標		12 1-3	12 4-6	12 7-9	12 10-12	13 1-3	12 11	12 12	13 1	13 2	13 3	13 4
景気全般	景気動向指数　愛知（ＣＩ、一致指数）	98.8	100.6	96.1	92.5		91.7	94.1	95.4	97.5		
	岐阜（ＣＩ、一致指数）	103.1	101.6	102.4	101.0		101.6	99.6	101.8	103.6		
	三重（ＣＩ、一致指数）	101.2	101.0	86.7	82.5		82.3	82.0	84.5	86.5		
	景気ウォッチャー調査（現状判断DI）	48.6	48.2	42.1	39.6	52.8	36.5	46.3	50.0	52.4	56.1	57.1
	（先行判断DI）	47.9	48.6	42.2	44.8	55.4	42.9	51.6	56.3	54.4	55.4	57.2
	短観業況判断ＤＩ（大企業製造業）	17	5	5	-17	-3	-6 <6月予想>					
	（中小企業製造業）	-5	-10	-5	-15	-22	-16 <6月予想>					
	（非製造業）	-3	0	-5	-6	-2	-1 <6月予想>					
	法人企業統計経常利益　製造業(兆円)	0.4	0.5	0.4	0.4							
	非製造業(兆円)	0.1	0.2	0.3	0.2							
生産	鉱工業生産（季節調整済、前期比・前月比）	8.0	-0.2	-8.5	-5.4	9.9	-2.6	1.0	8.8	2.1	-0.5	
	鉱工業出荷（季節調整済、前期比・前月比）	6.3	0.6	-8.1	-4.6	10.2	-2.4	3.1	7.8	2.2	-1.2	
	鉱工業在庫（季節調整済、前期比・前月比）	2.6	6.3	2.4	-3.2	-4.6	0.2	-0.6	-4.9	0.8	0.4	
	鉱工業生産　輸送機械（　〃　）	12.5	2.7	-12.5	-10.1	17.5	-3.4	5.5	12.0	6.5	-5.4	
	一般機械（　〃　）	0.7	-0.1	-7.8	-6.5	0.5	-3.0	3.0	-0.4	0.4	-0.9	
	電子部品・デバイス工業（〃）	10.1	-3.9	-16.7	28.3	2.2	0.8	-20.1	23.7	-9.5	8.3	
	プラスチック製品工業（〃）	8.0	4.9	-8.3	-2.8	5.2	1.0	-1.0	3.7	3.6	-1.9	
	化　学（　〃　）	-5.7	1.9	1.5	-1.7	7.3	-2.2	6.1	-4.0	7.9	8.3	
	電気機械（　〃　）	1.1	3.8	-6.2	-5.1	7.0	-0.2	2.7	4.1	1.8	-0.6	
	鉄　鋼（　〃　）	6.1	1.2	-8.8	-8.2	10.6	2.7	2.2	4.7	4.3	0.9	
	金属工作機械受注　総受注（億円）	322.2	334.6	332.4	286.6	290.0	274.4	286.2	260.2	317.5	292.3	
	国内受注（億円）	113.9	105.4	96.9	79.0	80.4	87.8	73.3	70.2	84.7	86.2	
	海外受注（億円）	208.3	229.2	235.5	207.6	209.6	186.6	212.9	190.0	232.8	206.1	
	大口販売電力量	4.9	6.9	-1.0	-4.2	-6.3	-4.5	-5.4	-4.8	-8.0	-6.1	
雇用	完全失業率（原数値、%）	3.5	3.8	3.2	3.3	3.4						
	就業者数（原数値、万人）	763	761	768	768	762						
	常用雇用指数　愛知	99.0	99.6	100.0	100.4		100.1	100.9	99.8	99.4		
	岐阜	99.1	99.6	99.6	99.5		99.4	99.9	98.8	98.9		
	三重	99.4	99.9	98.8	98.8		98.9	98.4	96.9	96.9		
	有効求人倍率　愛知（季節調整値、倍）	1.05	1.19	1.15	1.1	1.16	1.06	1.09	1.14	1.14	1.20	
	岐阜（季節調整値、倍）	0.92	1.01	0.99	0.9	0.98	0.91	0.91	0.99	0.97	0.99	
	三重（季節調整値、倍）	0.85	0.95	0.90	0.8	0.89	0.83	0.85	0.88	0.88	0.90	
	新規求人倍率　愛知（季節調整値、倍）	1.72	1.85	1.66	1.7	1.85	1.61	1.75	1.75	1.79	2.02	
	岐阜（季節調整値、倍）	1.45	1.48	1.40	1.4	1.50	1.36	1.35	1.55	1.47	1.47	
	三重（季節調整値、倍）	1.39	1.41	1.32	1.3	1.39	1.24	1.29	1.35	1.31	1.51	
賃金	現金給与総額	-0.5	-0.2	-1.4	-1.6		-1.5	-1.5	-1.0	-0.2		
	所定内給与	-0.8	-1.2	-1.3	-1.3		-1.6	-1.4	-0.1	-0.3		
	所定外給与	9.9	21.7	2.0	-5.5		-5.6	-5.3	-2.6	-3.3		
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入　勤め先収入	4.5	0.4	-5.2	1.3	5.7	-0.3	5.2	4.2	5.3	7.4	
	定期収入	7.0	1.6	-4.4	-4.2	3.5	-2.3	-3.9	4.2	2.0	4.4	
個人消費	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出	-4.8	-4.2	1.8	-5.9	11.8	1.4	-7.1	5.5	2.3	26.9	
	百貨店販売額（名古屋市内）	-0.3	0.0	-0.5	-0.6	2.0	1.6	0.0	-0.8	1.5	5.2	2.8
	百貨店＋スーパー販売額（名古屋市内百貨店除く）	0.4	-1.0	-1.8	0.3	-2.2	2.0	2.0	-3.7	-5.2	2.5	
	コンビニエンスストア販売額	2.5	2.7	-0.7	-1.5	-1.4	-2.3	-1.1	-0.3	-4.9	1.0	
	新車登録台数（除軽）	53.4	74.2	8.6	-7.9		-5.0	-3.4	-14.5	-12.0	-16.6	3.4
	家電販売額	-19.7	-28.1	-15.0	-5.8		0.3	-5.6	-7.7	-2.8	-1.4	
	消費者態度指数（一般世帯、原数値）	40.0	41.3	41.7	39.7	44.2	39.0	39.5	42.9	44.6	45.2	45.4
	トヨタ国内生産台数（季節調整値、万台）	33.5	30.8	27.9	23.9	30.4	23.3	24.5	29.8	31.5	30.0	
住宅投資	新設住宅着工戸数（季節調整済年率換算、千戸）	96.8	97.1	104.3	106.2	104.7	107.0	104.1	105.1	104.7	104.4	
	（前年比、%）	-7.5	0.0	-10.0	16.5	8.2	14.0	12.3	15.2	5.6	4.4	
設備投資	法人企業統計設備投資（製造業）	-3.5	19.4	11.2	0.9							
	（非製造業）	-12.5	20.5	1.9	-15.6							
	企業立地件数	―	―	―	―	―	16	9		11		
公共投資	公共工事請負額	-0.7	10.5	8.5	15.4	-4.5	14.5	6.6	31.6	-27.5	-4.3	9.3
輸出入	実質輸出（季節調整値、07/12=100）	85.4	90.5	85.1	80.8	82.5	78.9	81.3	82.8	83.9	80.8	86.9
	通関輸出（金額ベース、円建て）	5.0	30.6	-0.3	0.2	6.7	3.3	-2.2	16.1	4.1	2.4	10.6
	実質輸入（季節調整値、07/12=100）	98.5	104.4	107.5	93.1	95.2	92.5	98.5	94.6	100.5	90.7	97.1
	通関輸入（金額ベース、円建て）	13.0	6.5	2.1	-0.9	5.7	-1.7	2.6	4.8	20.0	-4.5	8.0
物価	消費者物価指数（除く生鮮）	0.3	0.3	0.1	0.0	-0.3	0.0	0.0	-0.1	-0.3	-0.5	
	（食料及びｴﾈﾙｷﾞｰを除く総合）	-0.7	-0.3	-0.4	-0.4	-0.7	-0.4	-0.4	-0.6	-0.8	-0.8	
金融	国内銀行預金残高	3.4	2.5	1.9	1.6	1.1	1.4	1.6	1.3	1.1	1.0	
	国内銀行貸出残高	2.2	0.4	-0.6	-0.6	0.0	-0.7	-0.1	0.0	-0.8	0.7	
倒産	倒産件数	-17.6	-8.7	22.2	-20.3	-8.9	-24.3	-7.9	-17.8	-26.7	21.7	-11.3

(注)　括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

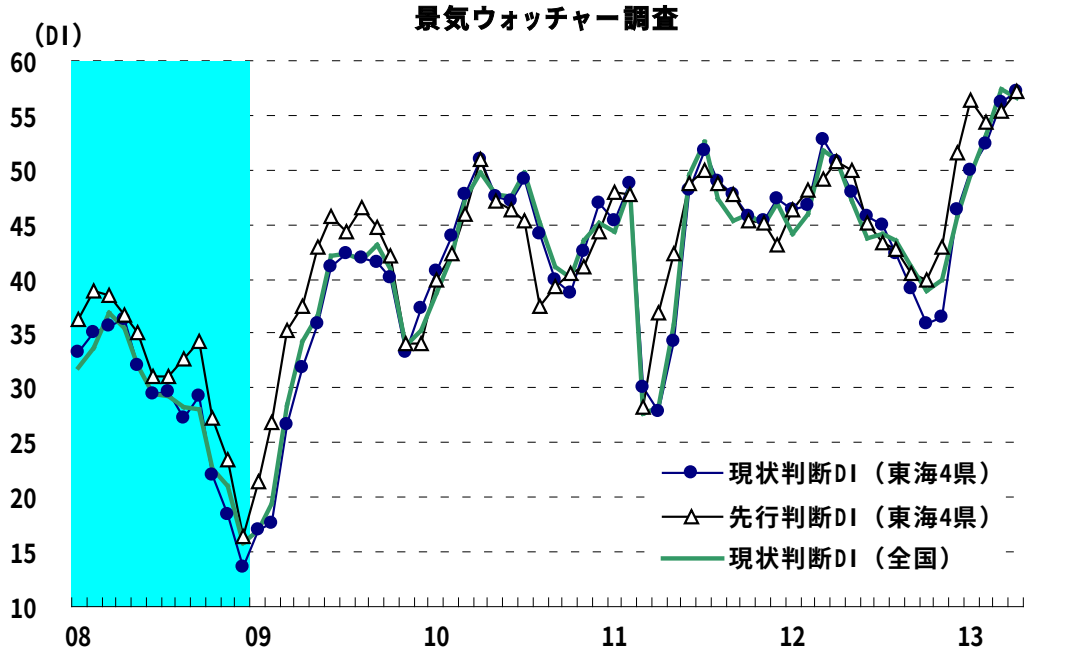
１．景気全般　～持ち直している

○2月の東海3県の景気動向指数・ＣＩ一致指数は、愛知県が8系列のうち7系列でプラス寄与となり、3ヶ月連続の上昇となった。岐阜県と三重県も2ヶ月連続で上昇した。先行指数は、愛知県と岐阜県で低下に転じたが、三重県は上昇している。



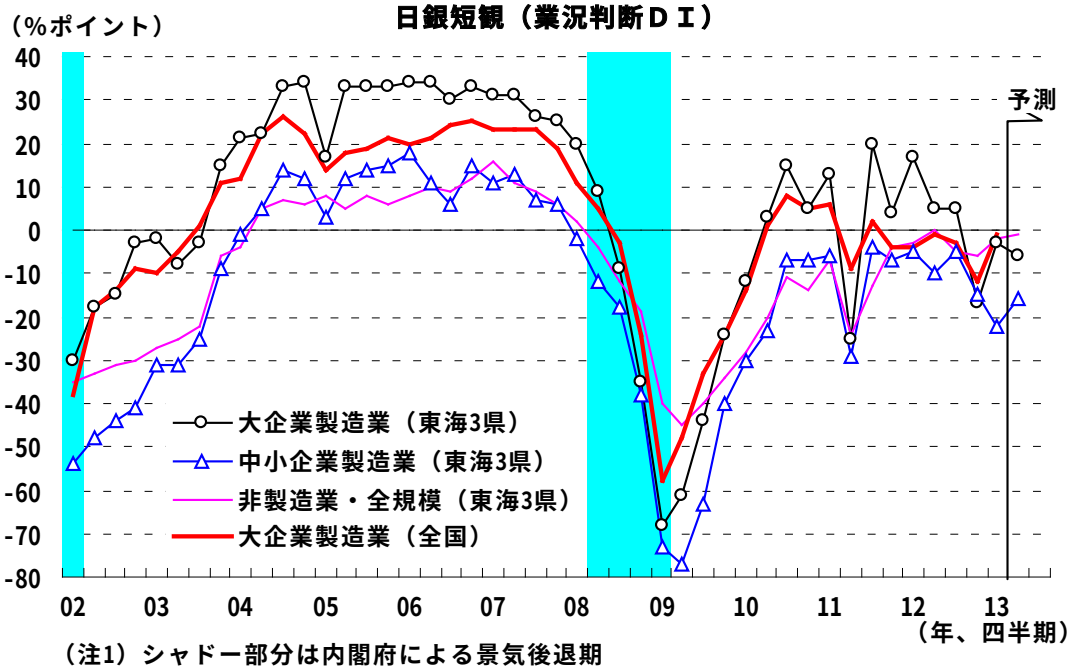
（出所）内閣府「景気動向指数」、各都道府県「景気動向指数」

○ 4 月の東海 4 県の景気ウォッチャー調査は、円安・株高傾向を背景に足元の景況感を示す現状判断ＤＩは前月差＋1.0 ポイントと 6 ヶ月連続で上昇した。家計動向関連の現状判断ＤＩも同＋0.1 ポイントと 5 ヶ月連続で上昇したが、いずれも上昇幅は縮小した。東海 4 県の先行判断ＤＩも同＋1.8 ポイントと 2 ヶ月連続で上昇したが、現状と比べた先行きに対する期待感は落ち着いてきている。



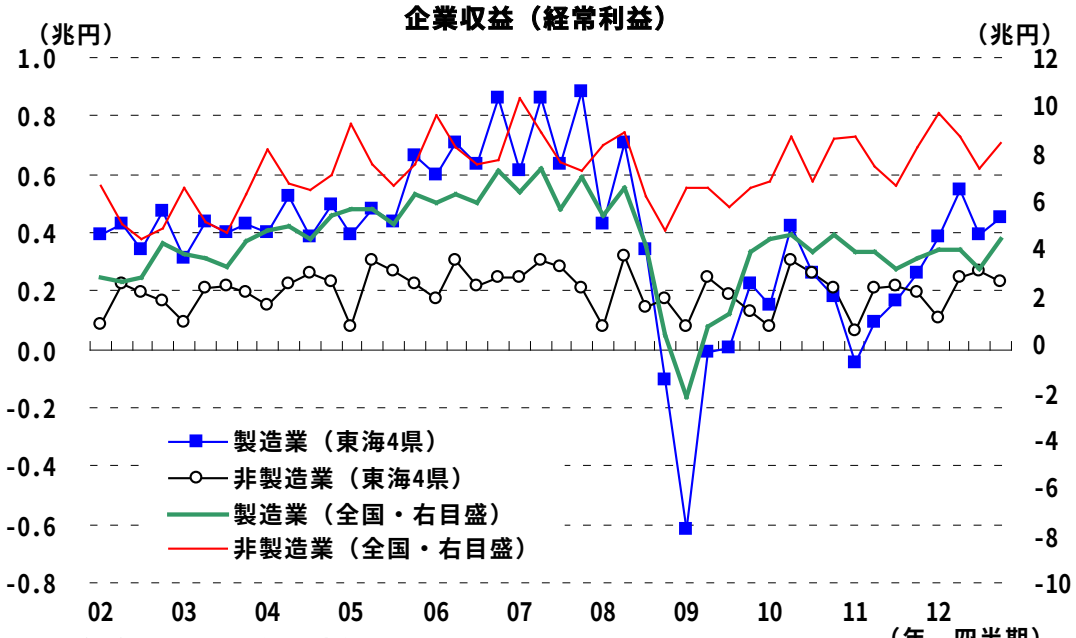
（注1）シャドー部分は内閣府による景気後退期
（注2）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」

○日銀短観3月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断ＤＩ(「良い」－「悪い」)は－3と、前回12月調査から14ポイント改善した。一方で、中小製造業は円安による原材料高が響き－22と前回調査から逆に7ポイント悪化した。大企業製造業の業況判断ＤＩの6月予測は－6と3ポイント悪化する見通しとなっているが、中小製造業は－16と6ポイントの改善が見込まれている。



（注1）シャドー部分は内閣府による景気後退期
（注2）調査対象企業見直し時における前回調査の計数は見直し後で接続。
（注3）東海3県=愛知、岐阜、三重。
（出所）日本銀行、日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」

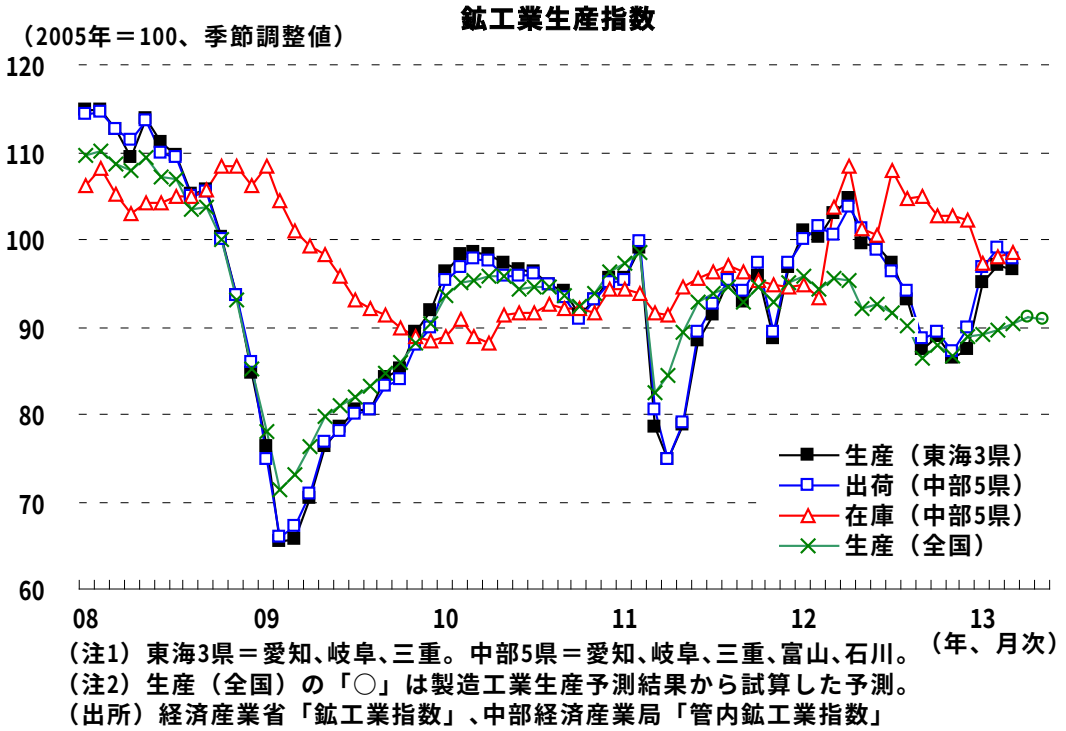
○2012年10～12月期の東海4県の企業収益（経常利益、製造業）は増益となり、震災前のピーク（10年4～6月期）の水準を再び上回った。非製造業は前年同期比で増加したが水準は低い。年度下期の業績は、中国経済の減速などが業績の下押し要因となり頭打ちとなるとみられていたが、衆院選前後からの円安・株高により、業績が緩やかな増加基調に転じた可能性が高い。



（注）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）財務省「法人企業統計調査」、東海財務局「四半期別法人企業統計調査」

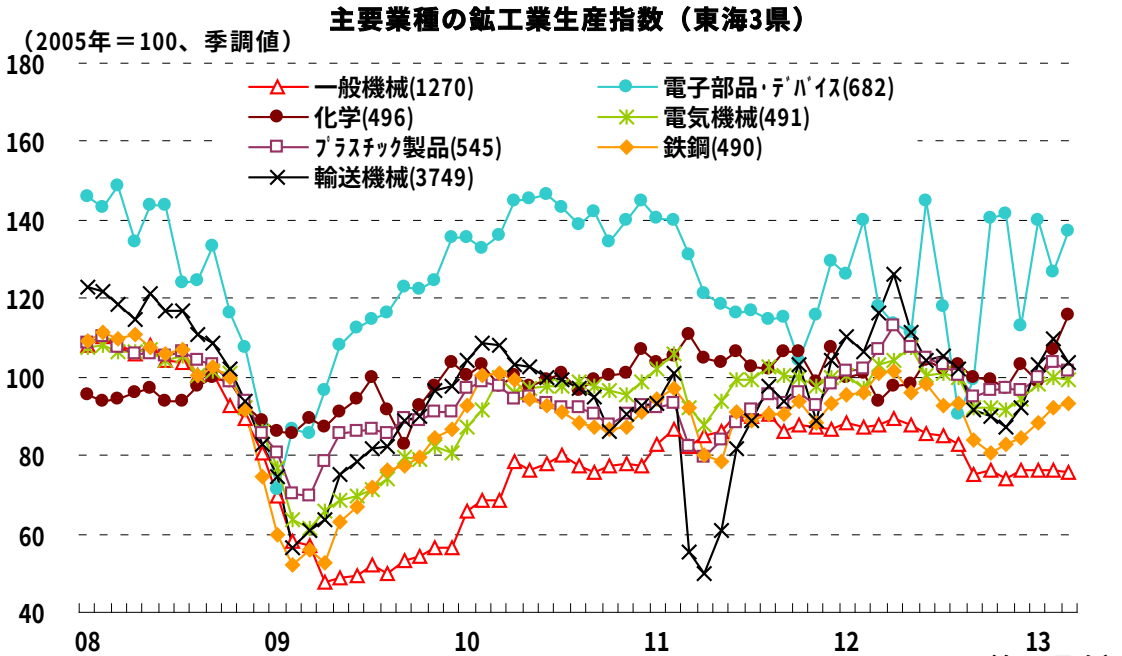
２．生産　～増加が一服している

○3月の東海3県の鉱工業生産指数は、前月比－0.5%と4ヶ月ぶりに低下した。自動車関連や航空機部品の生産減の影響が大きく、輸送機械が－5.4%と大きく低下した。先行きは、米国やアジア向け輸出が堅調に推移するとみられる一方で、国内では新車投入効果が一段落しつつあり、自動車などの輸送機械を中心に横ばい圏で推移する可能性が高い。



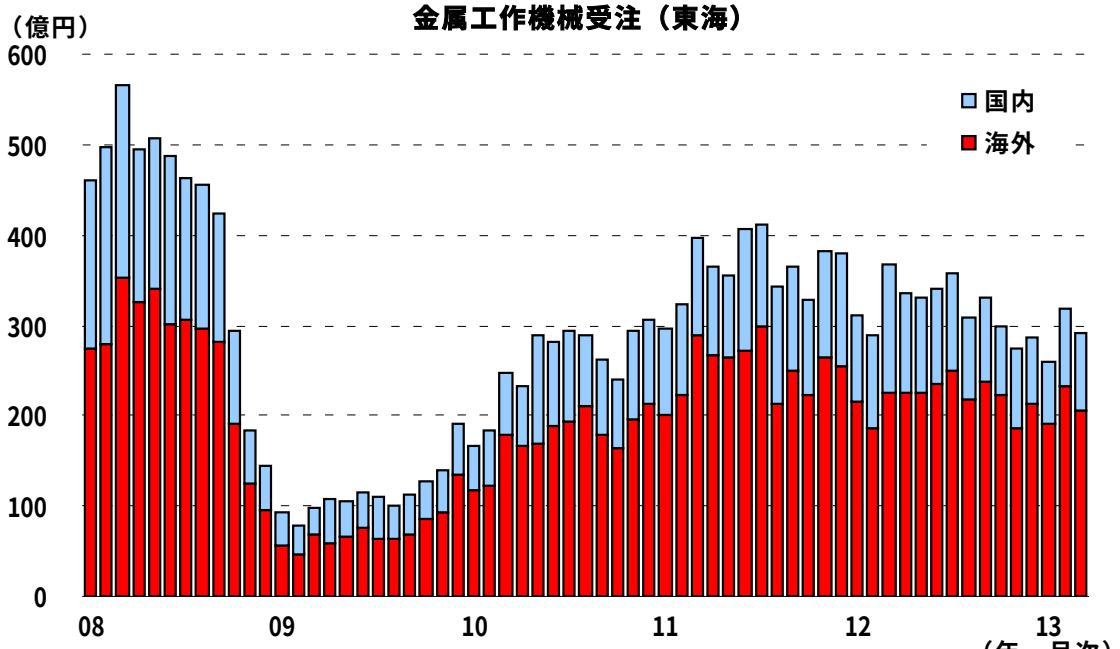
（注1）東海3県＝愛知、岐阜、三重。中部5県＝愛知、岐阜、三重、富山、石川。
（注2）生産（全国）の「○」は製造工業生産予測結果から試算した予測。
（出所）経済産業省「鉱工業指数」、中部経済産業局「管内鉱工業指数」

○　業種別にみると、輸送機械が前月比－5.4%だったが、自動車（同－1.8%）、自動車部品（同－4.6%）、航空機部品（同－26.9%）のマイナスが押し下げ要因となった。ボーイング787の運行停止後も生産は続いており、新型機以外の部材生産を広島に移管する影響が一時的に出た可能性もある。自動車関連のプラスチック製品（同－1.9%）、一般機械（同－0.9%）もそれぞれ減少した。



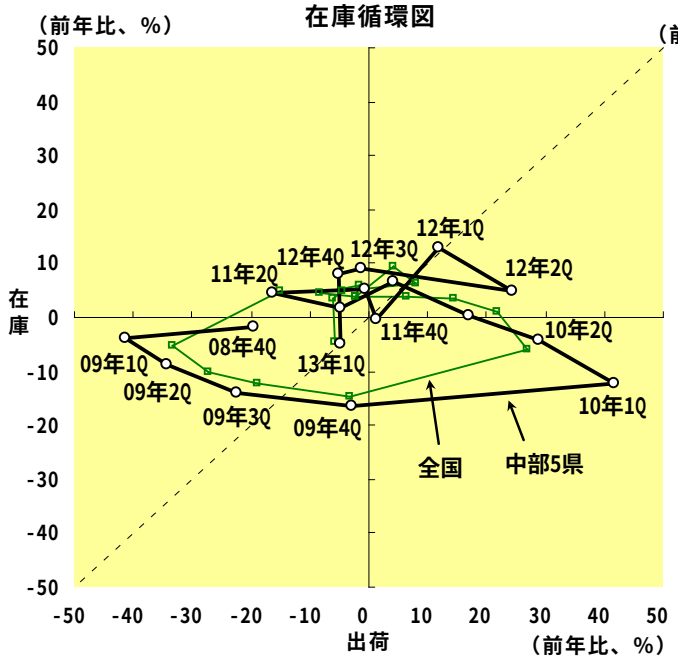
（注1）凡例括弧内の数字は付加価値ウェイト（鉱工業＝10000.0）
（注2）東海3県＝愛知、岐阜、三重。
（出所）中部経済産業局「管内鉱工業指数」

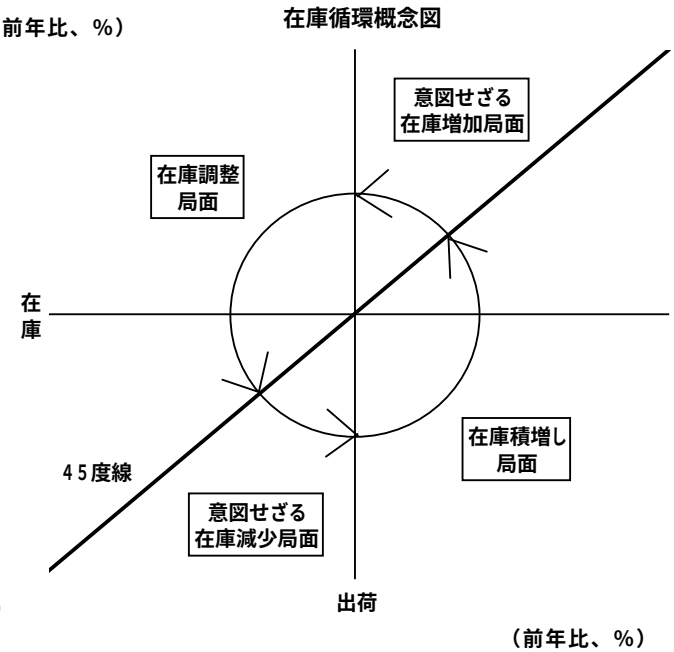
○ 3月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は前年比－20.6%と2ヶ月ぶりに減少した。国内受注（同－39.6%）が10ヶ月連続で減少し、減少幅も拡大した。海外受注（同－8.7%）も2ヶ月ぶりに減少した。欧州向け（同＋7.0%）は4ヶ月連続、米国向け（同＋2.0%）も2ヶ月連続で増加した一方、アジア向け（同－22.1%）は減少し、中国向け（同－25.2%）の減少幅が大きくなっている。



（注）東海は、中部経済産業局管内の主要8社
（出所）中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

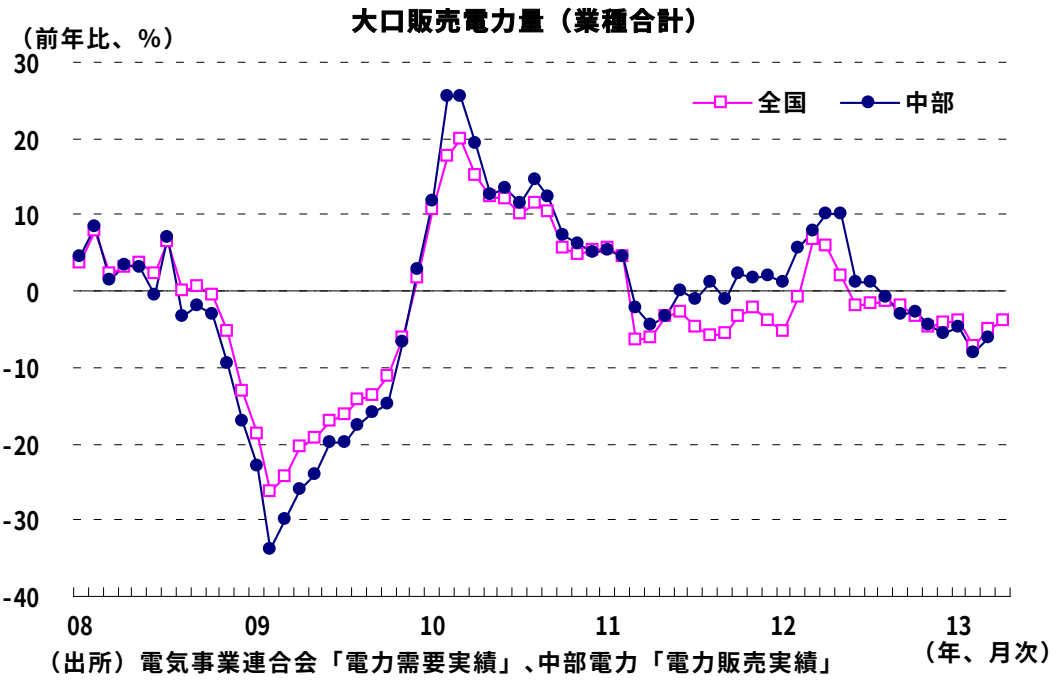
○ 3月の中部5県の出荷は、一般機械、輸送機械などを中心に前月比－1.2%と減少した。在庫は、需要の弱さを背景に電子部品・デバイス、情報通信機械などで増加し、3月は同＋0.4%となった。在庫水準が依然として高い業種もあるが、製造業全体では在庫調整圧力は着実に薄らいでいる。





（注1）数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
（注2）中部5県＝愛知、岐阜、三重、富山、石川。
（出所）経済産業省「鉱工業指数」、中部経済産業局「管内鉱工業指数」

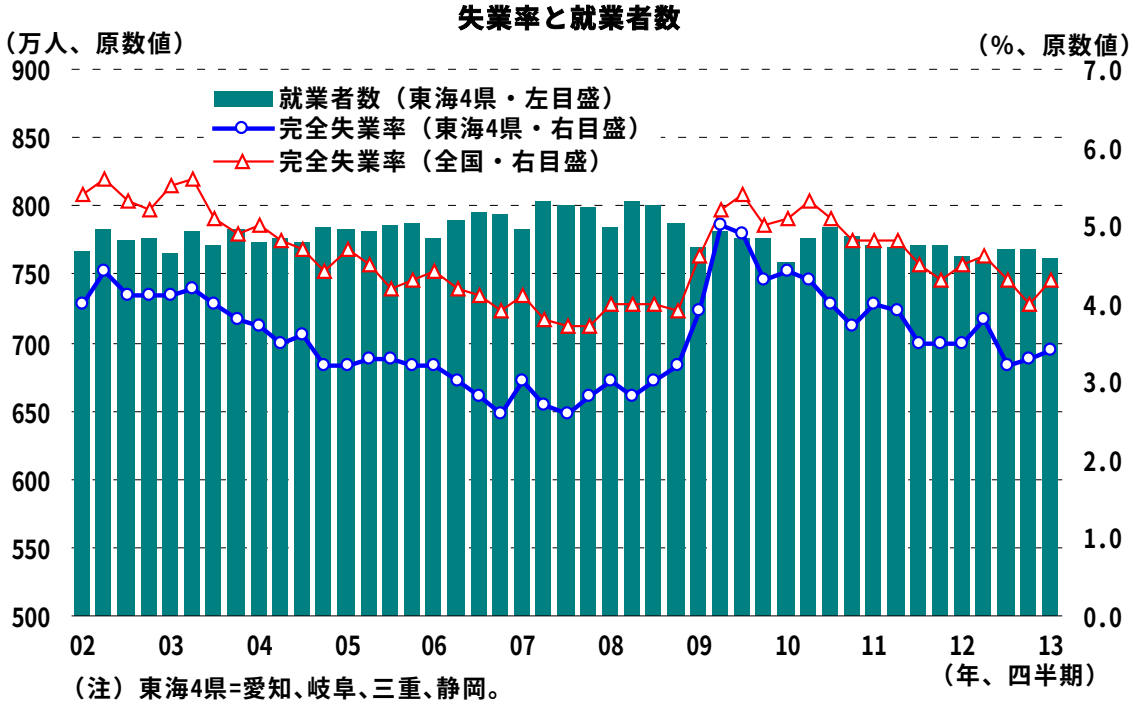
○3月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、前年比－6.1%と8ヶ月連続で減少した。自動車など機械工業向けが同－6.8%と7ヶ月連続で減少したほか、鉄鋼業向けも同－13.9%と8ヶ月連続で減少した。昨年の自動車産業における挽回生産の反動減が続いているほか、鉄鋼業で自動車向け鋼材の生産減と、自家発の稼働を強化したことが影響したとみられる。



（出所）電気事業連合会「電力需要実績」、中部電力「電力販売実績」

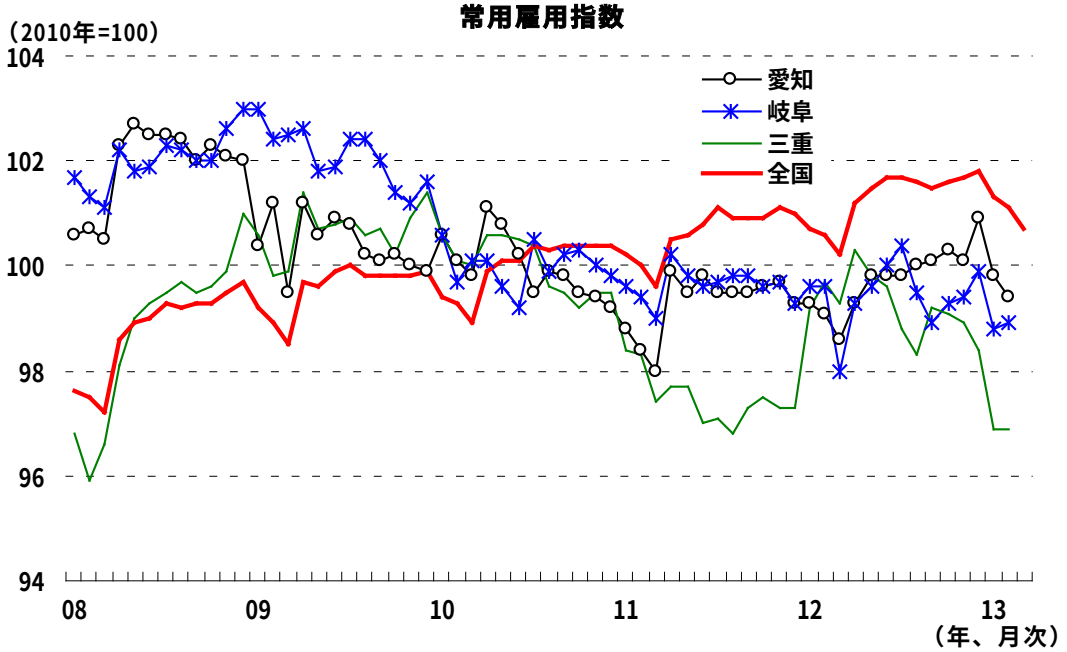
３．雇用　～横ばい圏で推移

○2013年1～3月期の東海4県の完全失業率は3.4%（前年差－0.1%ポイント）と全国（4.3%）と比べて低水準で推移している。一方、同時期の就業者数は前年差1万人の減少となっている。新規求人倍率と有効求人倍率は3月に入り頭打ちとなったものの、4月は再び持ち直している。しかし、常用雇用指数は全国に比べて依然として弱い動きが続いている。



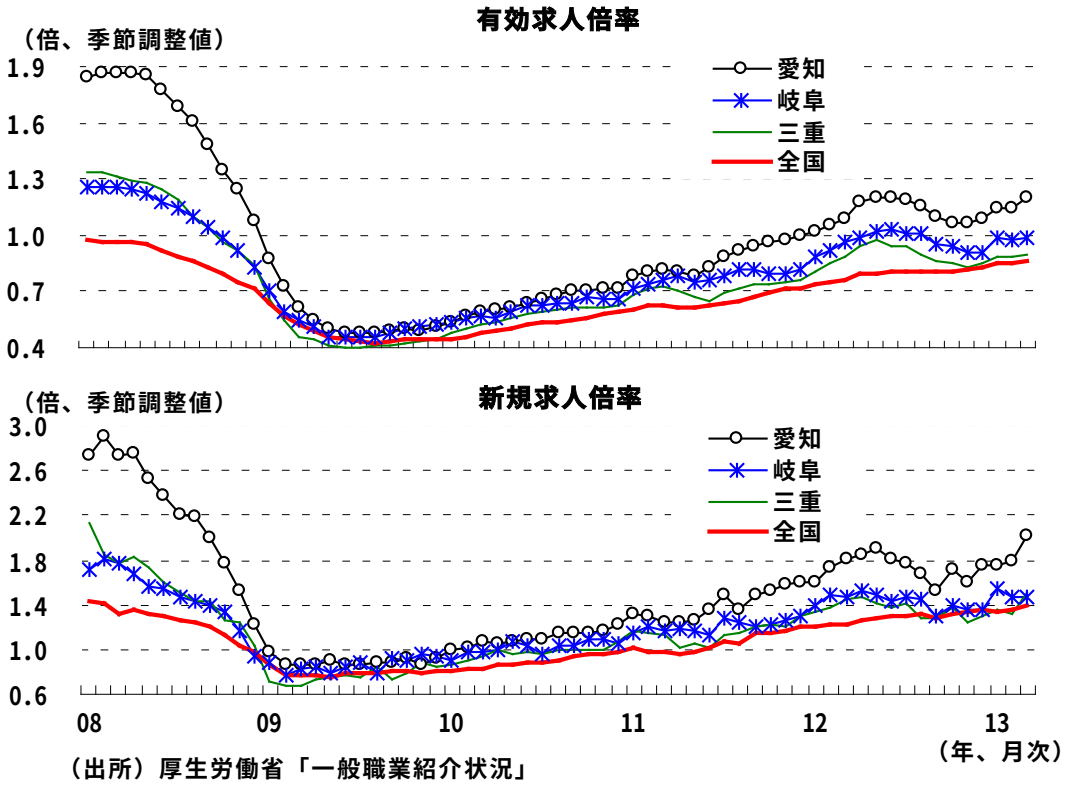
（注）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）総務省「労働力調査」

○東海3県の常用雇用指数は、2月の愛知県は前年比＋0.3%と上昇したものの、全国に比べて弱い動きが続いている。岐阜県は同－0.7%、三重県は同－2.8%と2ヶ月連続で低下している。東海3県の常用雇用の改善は一服している。



(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、各都道府県「毎月勤労統計調査地方調査」

○3 月の東海 3 県の有効求人倍率（季節調整値）は、愛知県が 1.20 倍、岐阜県が 0.99 倍、三重県が 0.90 と 2 ヶ月ぶりに 3 県とも上昇した。新規求人倍率（同）は、愛知が 2.02 倍と 2 ヶ月連続、三重が 1.51 倍と 2 ヶ月ぶりに上昇し、岐阜が 1.47 倍で横ばいだった。産業別では、愛知県の製造業の新規求人数が 9 か月ぶりに前年実績を上回り、全体を押し上げた。

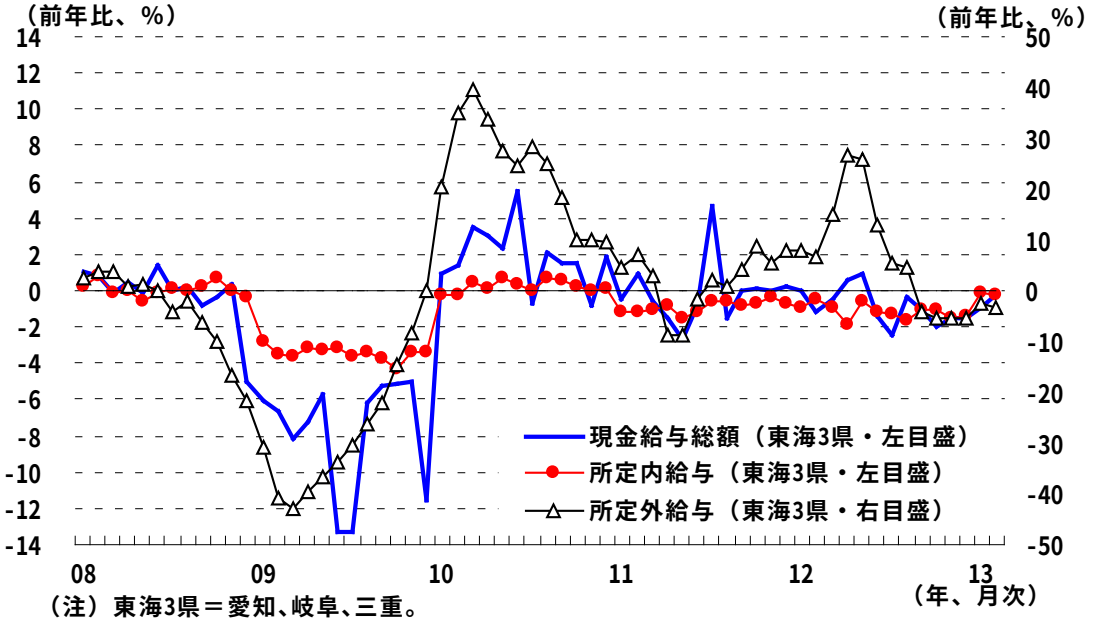


（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

４．賃金　～横ばい圏で推移

○2月の一人当たり現金給与総額は、前年比－0.2%と9ヶ月連続で減少したが、ほぼ横ばいまで改善している。所定内給与も同－0.3%とほぼ横ばいまで改善した一方で、所定外給与は同－3.3%と6ヶ月連続で減少している。企業の人件費抑制姿勢は根強いものの、賃金の減少傾向には歯止めがかかり、今後は、高水準の生産を背景に現金給与総額も増加に転じてくるとみられる。

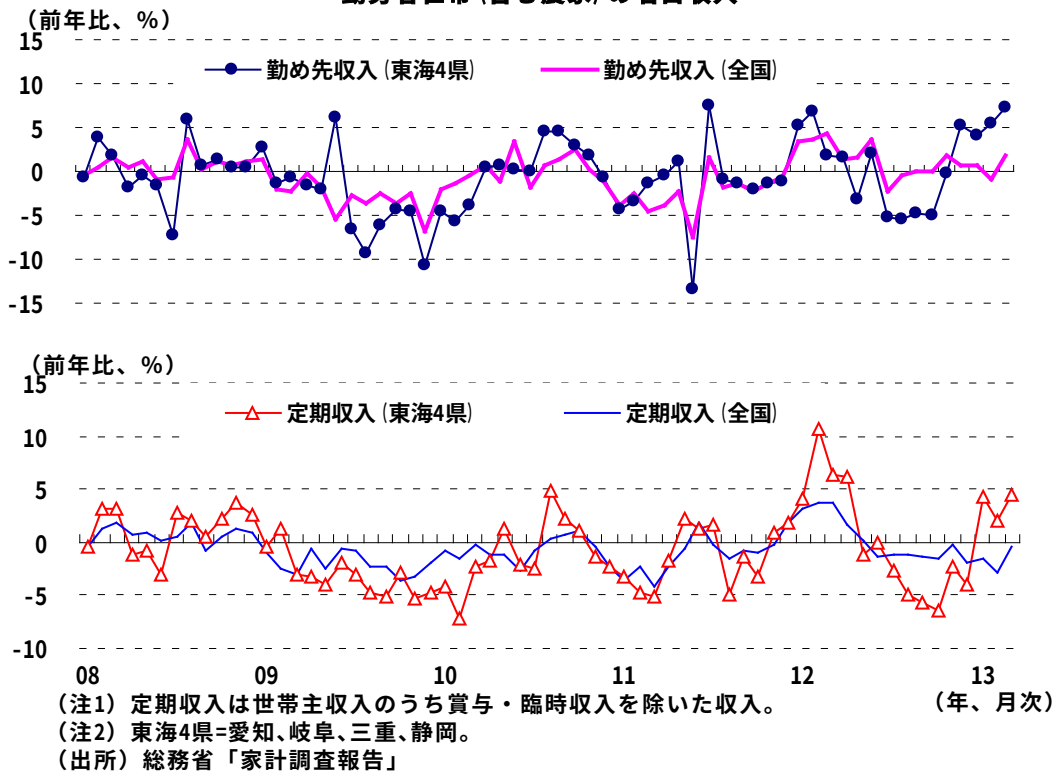
現金給与総額と所定内・所定外給与



（注）東海3県＝愛知、岐阜、三重。
（出所）各都道府県「毎月勤労統計調査地方調査」

○ 家計調査によると、3月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の賞与を含む勤め先収入は前年比＋7.4%と4ヶ月連続で増加した。定期収入（世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入）も前年比＋4.4%と3ヶ月連続で増加し、勤め先収入、定期収入いずれも増加幅は拡大している。

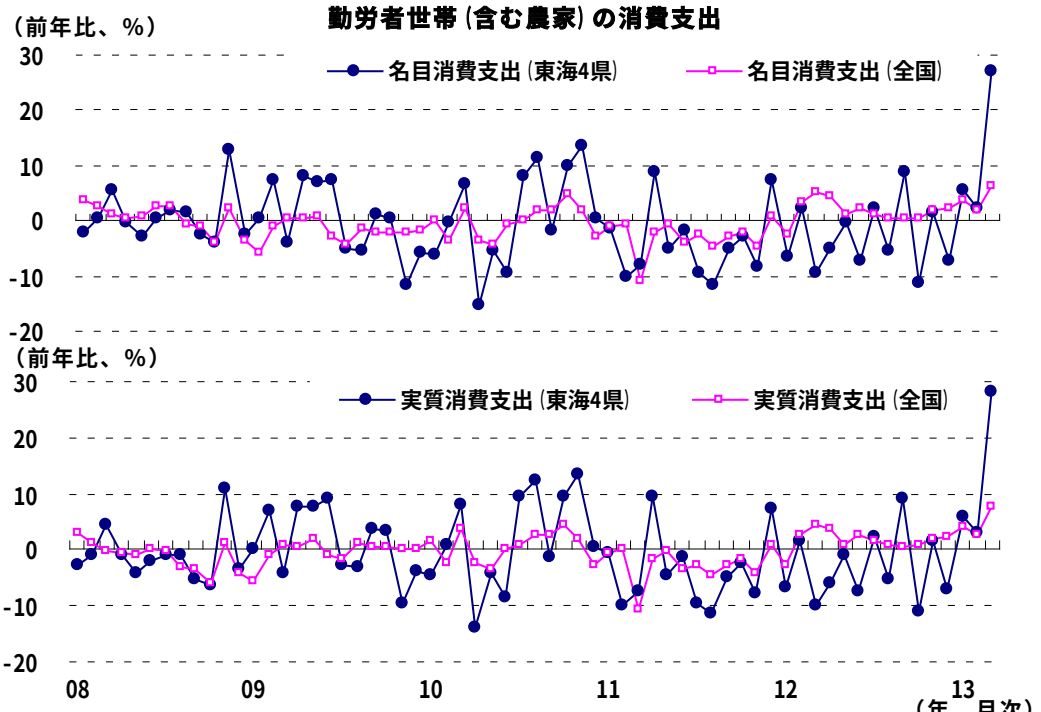
勤労者世帯（含む農家）の名目収入



（注1）定期収入は世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入。
（注2）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）総務省「家計調査報告」

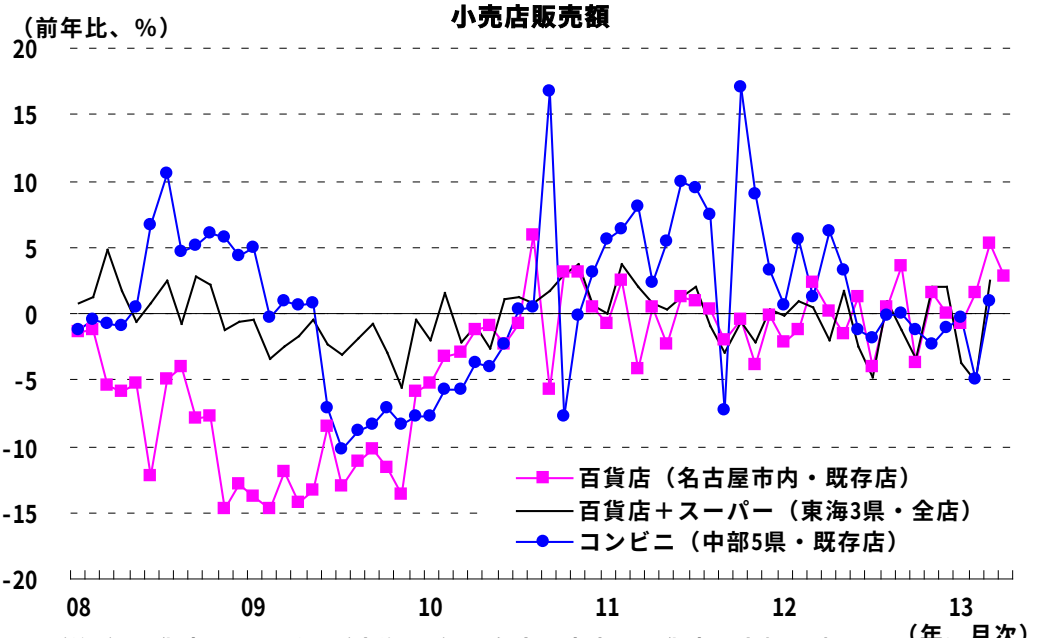
５．個人消費　～横ばい圏で推移

○3月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は、前年比＋26.9%と大きく増加した。円安・株高による消費者マインドの改善を背景に増加基調が定着しているが、3月は自動車と衣料品の購入費が全体を押し上げ、全国の伸びを大きく上回る高い伸びとなった。



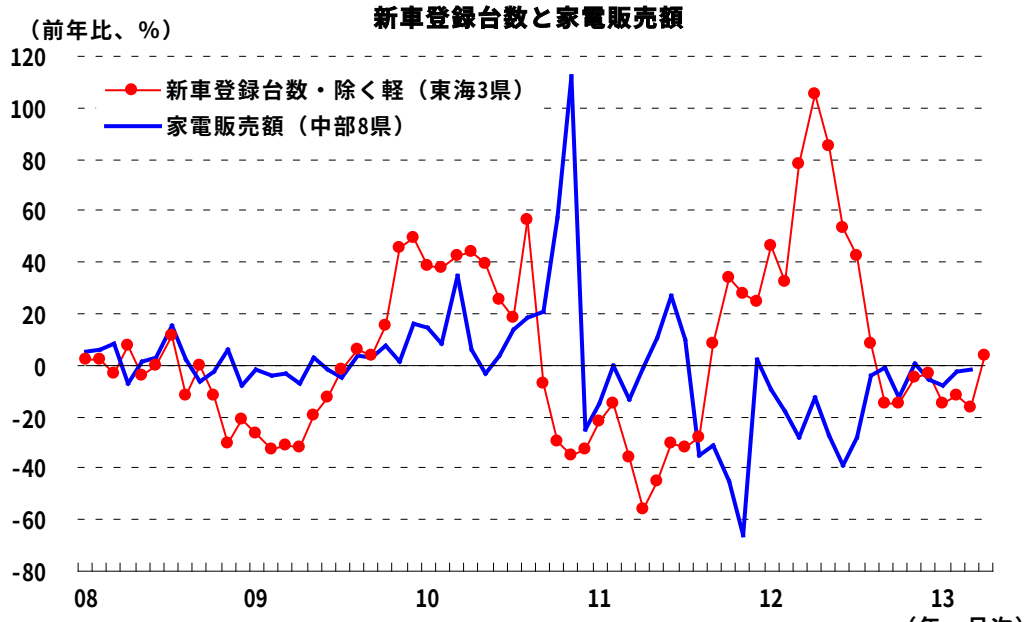
（注1）東海の実質消費支出はＭＵＲＣ試算（注2）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）総務省「家計調査報告」

○4 月の名古屋市内の百貨店販売額（速報値）は前年比＋2.8%と 3 ヶ月連続で増加し、高額消費は好調を維持している。3 月の東海 3 県の大型小売店（百貨店＋スーパー）の販売額は同＋2.5%と 3 ヶ月ぶりに増加し、中部 5 県のコンビニ販売額も同＋1.0%と 6 ヶ月ぶりに増加した。食品や日用品への支出は弱含んでいるが、3 月は天候に恵まれ、前年より日曜日が一日多く、春物衣料の増加が寄与した。



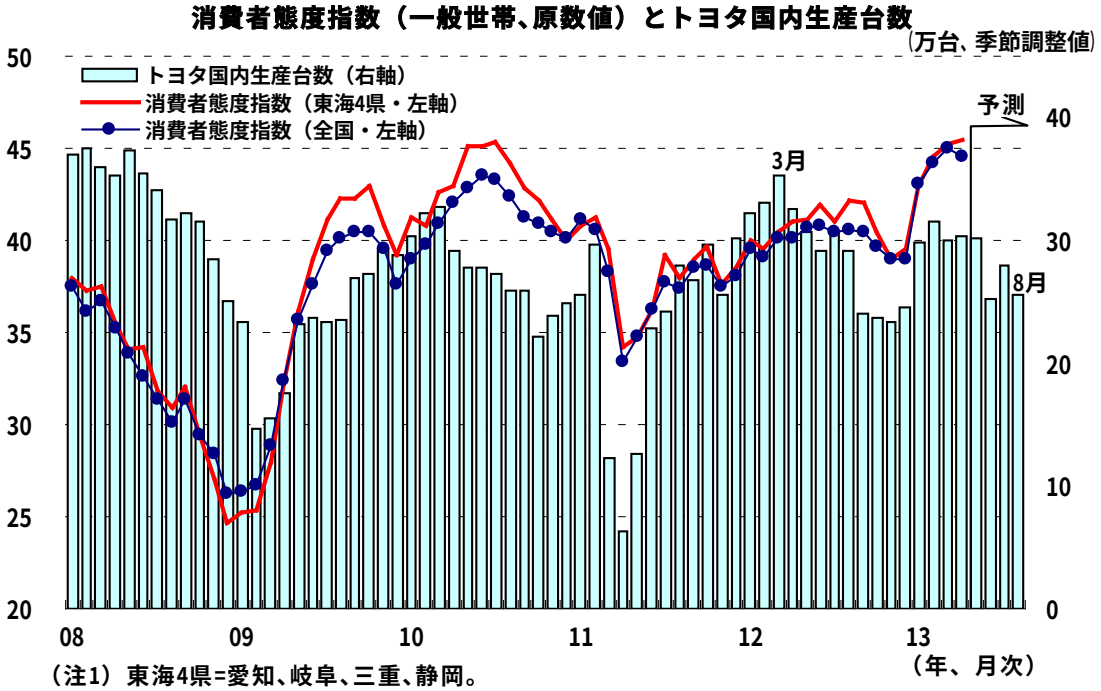
（注1）百貨店＋スーパー（東海3県）は名古屋市内の百貨店販売額を除く。
（注2）中部5県＝愛知、岐阜、三重、富山、石川。東海3県＝愛知、岐阜、三重。
（出所）中部経済産業局「管内大型小売店販売概況」、中部百貨店協会

○4月の東海3県の新車登録台数（乗用車、除く軽）は、前年比＋3.4%と8ヶ月ぶりに増加した。これまでの度重なる買い替え支援策により需要を先食いした影響が出ていたが、燃費性能が高いハイブリッド車やコンパクトカーが全体をけん引した。一方、3月の中部8県の家電販売額はテレビ販売の不振が長期化しているものの、前年比－1.4%と減少幅は徐々に縮小している。



（注1）中部8県＝愛知、岐阜、三重、富山、石川、福井、静岡、長野の8県全店ベース。
（注2）東海3県＝愛知、岐阜、三重。
（出所）日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

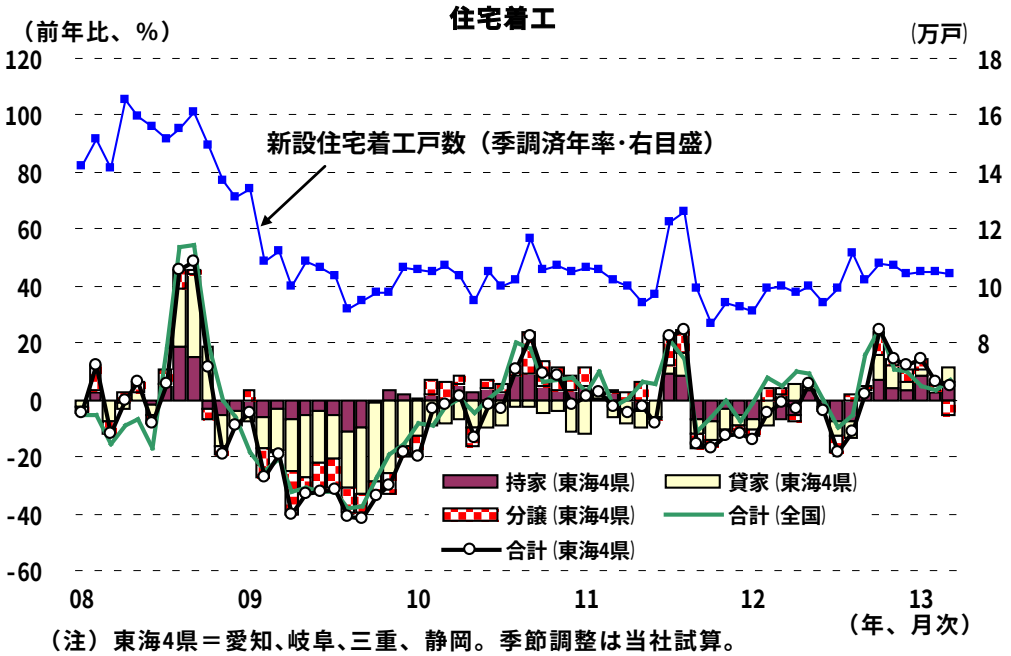
○消費者マインドを表す消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、4月が前月比＋0.2ポイントと、5ヶ月連続の上昇となった。円安・株高に加え、自動車の高水準の生産に伴って東海の消費者心理は改善傾向が続いている。トヨタの生産はすでに増加が一服しており、今のところ6月以降は下振れする計画となっている。このため、東海の消費者マインドの改善も頭打ちとなってくる可能性がある。



（注1）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
（注2）トヨタ国内生産台数はＭＵＲＣにて季節調整。
（出所）内閣府「消費動向調査」、トヨタ自動車生産「国内販売・輸出実績」
中部経済新聞「トヨタ生産計画」

６．住宅投資　～横ばい圏で推移

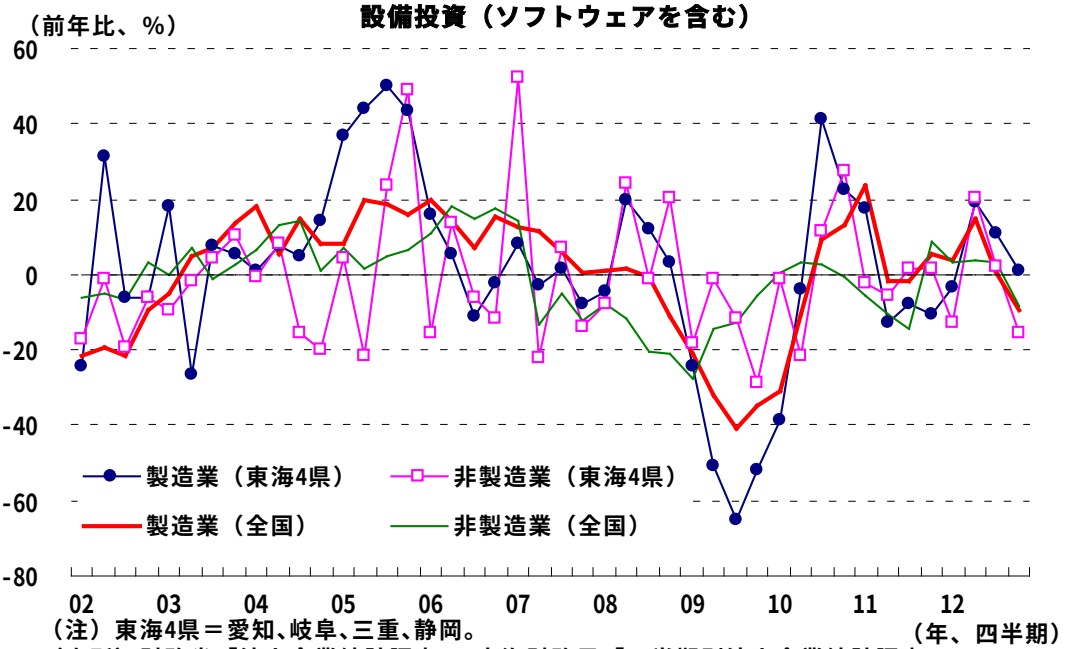
○3月の東海4県の住宅着工戸数は前月比で－0.3%と2ヶ月連続で減少した。前年比では＋4.8%の8663戸と7ヶ月連続で増加し、利用関係別の寄与度では、持家と貸家は7ヶ月連続のプラス、分譲は8ヶ月ぶりにマイナスとなった。今後は、消費税増税前の駆け込み需要に対応したアパート・マンション建設に加え、持家の駆け込み需要も予想され、持ち直しが見込まれる。



（注）東海4県＝愛知、岐阜、三重、静岡。季節調整は当社試算。
（出所）国土交通省「建設着工統計」

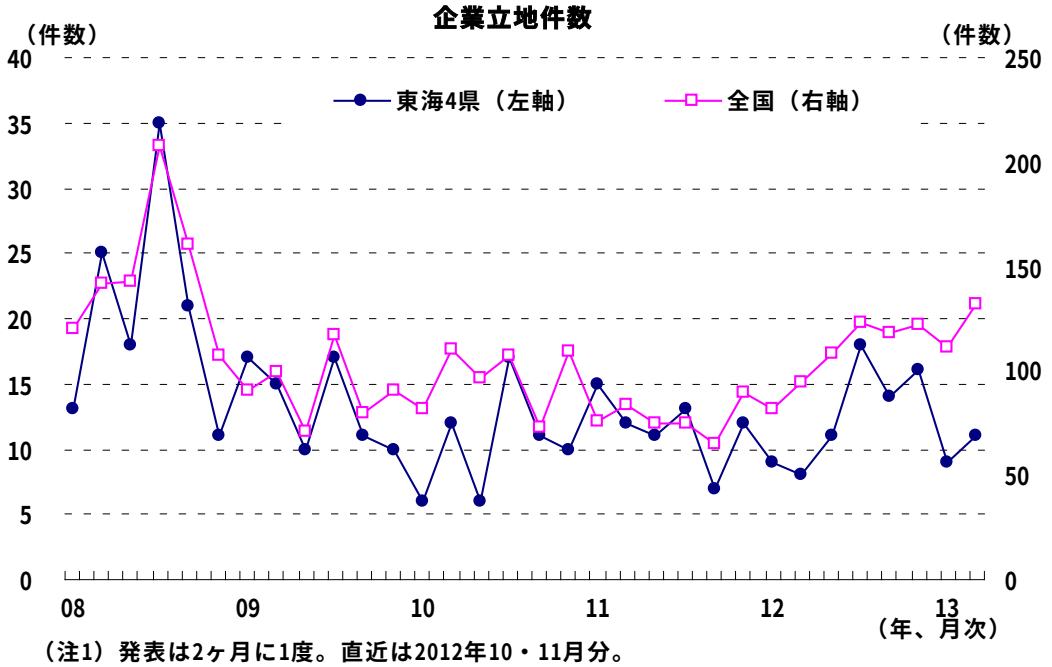
７．設備投資　～増加が一服している

○2012年10～12月期の東海4県の製造業の設備投資は、前年比＋0.9%と3四半期連続で増加したが、非製造業(ｿﾌﾄｳｪｱを含む)は前年比－15.6%と減少に転じた。設備投資は全国比で弱めの動きが続いていたが製造業では上回ってきている。足元では増加が一服しており、日銀短観3月調査では、13年度の設備投資計画が、製造業で＋0.2%、非製造業で－5.2%となっており慎重な動きとなっている。



（注）東海4県＝愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）財務省「法人企業統計調査」、東海財務局「四半期別法人企業統計調査」

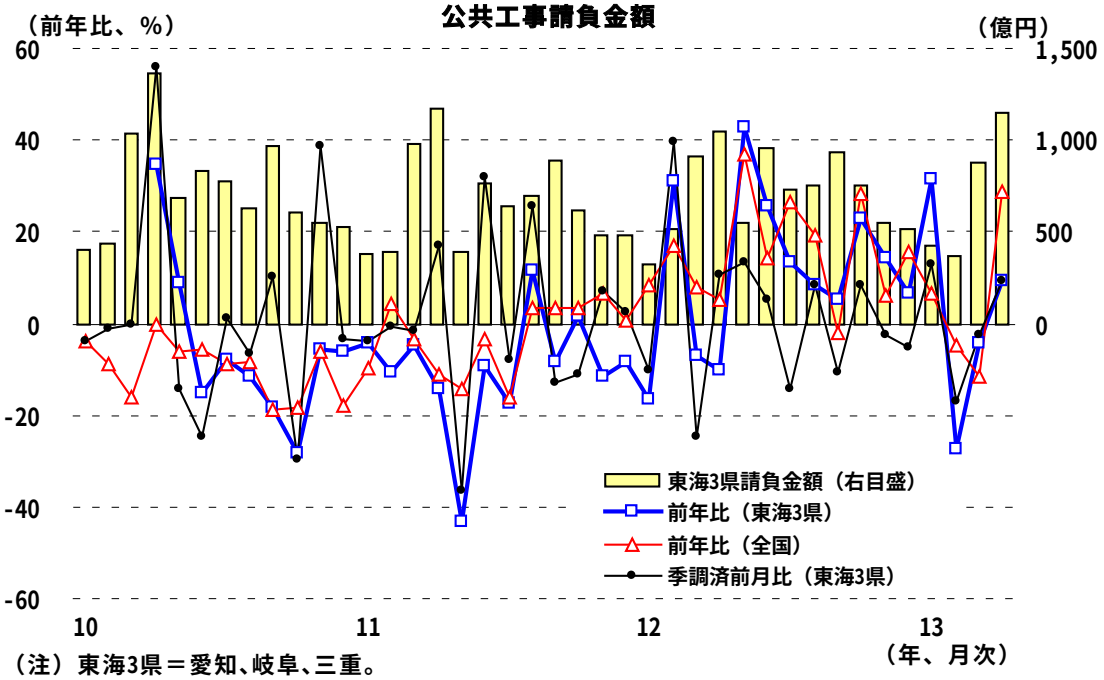
○2013年2月･3月の東海4県の企業立地件数は11件と、前期（12年12月･13年1月）及び前年同期と比べて増加したが、水準は低い。東海では、円高定着などもあり製造業を中心に全国と比べて企業立地件数が伸び悩んだ後、2012年度後半以降、徐々に増加傾向に転じてきていたが、足元では下振れている。



（注1）発表は2ヶ月に1度。直近は2012年10・11月分。
（注2）東海4県＝愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）日本立地センター「産業立地」

８．公共投資　～増加基調で推移

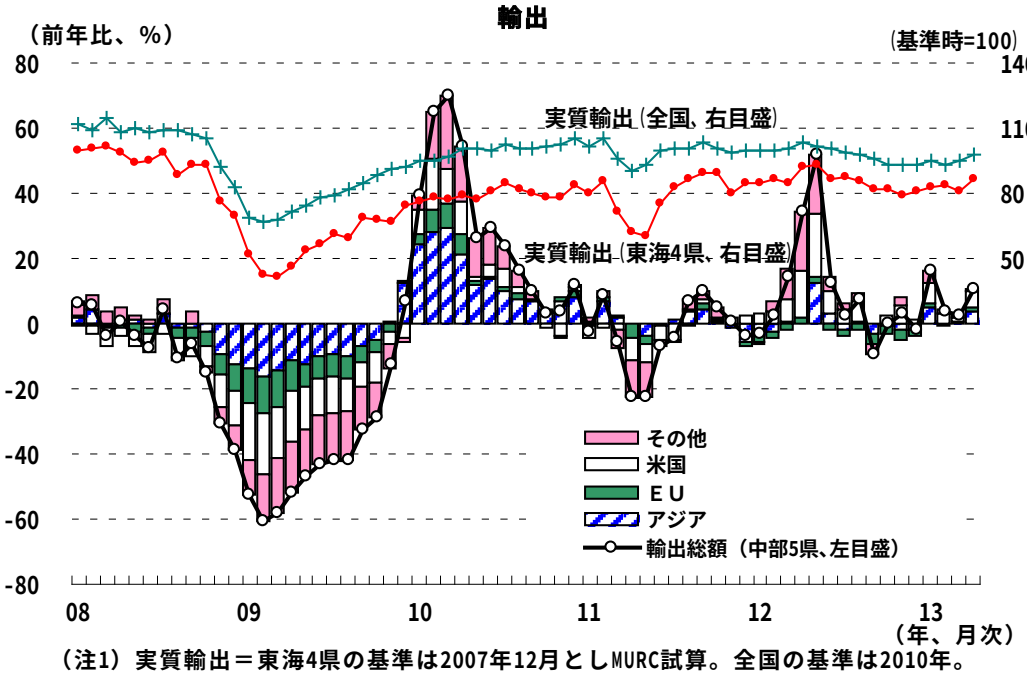
○4月の東海3県の公共工事請負額は、前年比＋9.3%の1146億円と増加した。発注者別では国が前年比－22.0%と3ヶ月連続で減少し、地方は同＋28.8%と2ヶ月連続で増加した。季調済前月比でも＋9.3%と増加した。東海3県では災害復旧及び防災対策工事などが下支えとなり増加基調で推移してきたが、今後も、補正予算の執行に伴う公共事業の増加が本格化してくると見込まれる。



（注）東海3県＝愛知、岐阜、三重。
（出所）日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」、保証事業会社協会、北海道建設業信用保証(株)
東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)「公共工事前払金保証統計」

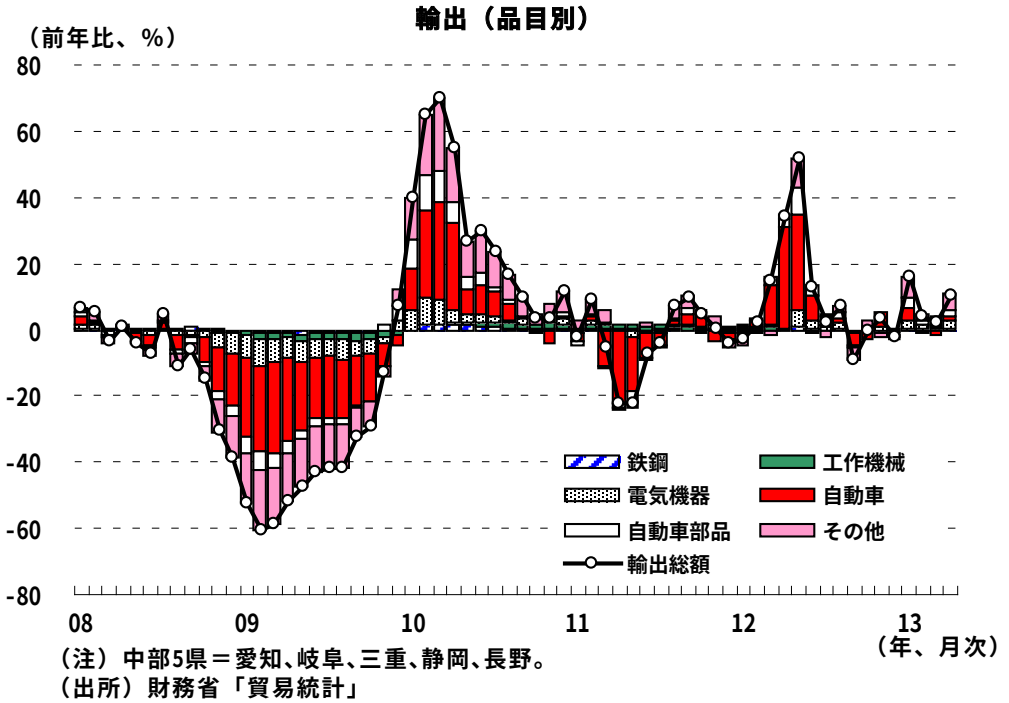
９．輸出入　～輸出は持ち直し、輸入は横ばい

○4月の実質輸出（季調済）は前月比＋7.6%と2ヶ月ぶりに増加した。4月の名古屋税関管内の輸出額は前年比＋10.6%と4ヶ月連続で増加した。地域別にみると、米国向けが同＋19.9%と7ヶ月連続、アジア向けが同＋10.0%と4ヶ月連続のプラスと全体をけん引した。中国向けは同＋2.6%と10ヶ月ぶりに増加したが小幅増にとどまった。今後も、世界経済の回復とともに持ち直し基調が続くと予想される。



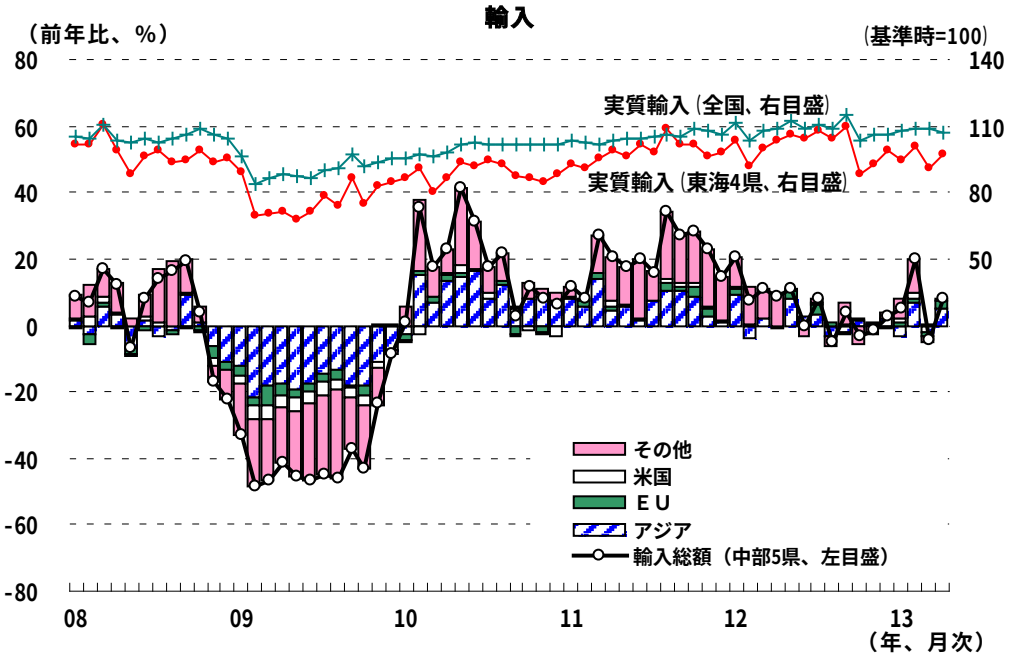
（注1）実質輸出＝東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。
（注2）中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県＝愛知、岐阜、三重、長野。
（出所）財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

○4月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、主力の自動車（前年比＋4.7%）と自動車部品（同＋14.8%）が増加したものの、金属工作機械（同－21.6%）が減少しており、特に中国向け（同－30.1%）を含むアジア向け（同－40.7%）が大きく減少している。



（注）中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。
（出所）財務省「貿易統計」

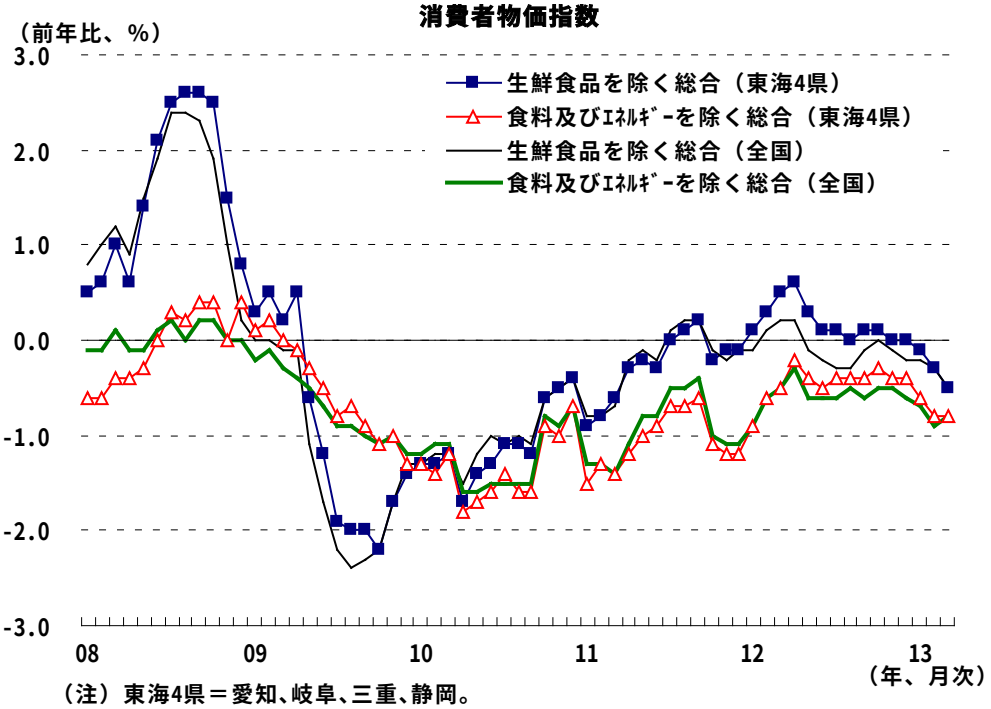
○4月の実質輸入（季調済）は前月比＋7.1%と2ヶ月ぶりに増加した。昨年10月の地球温暖化対策税の導入前の駆け込み輸入の反動により減少した後は、変動しながらも総じて横ばい圏の動きになっている。4月の名古屋税関管内の輸入額は前年比＋8.0%と2ヶ月ぶりに増加した。今後もドル円相場や資源相場の影響はあるものの、横ばい圏での推移が続くと見込まれる。



（注1）実質輸入＝東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。
（注2）中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県＝愛知、岐阜、三重、長野。
（出所）財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

10．物価　～消費者物価は小幅下落

○3月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合では、電気・ガス料金などが上昇したが家電製品や日用品などの下落により、前年比－0.5%と低下幅が拡大した。食料・エネルギーを除く総合では同－0.8%と横ばいだった。今後は、円安に伴う輸入物価の上昇に加え、4月以降の小麦や食用油、電気・ガス料金や自賠責保険の引き上げなど物価上昇要因が増えるため、下落幅の縮小が見込まれる。

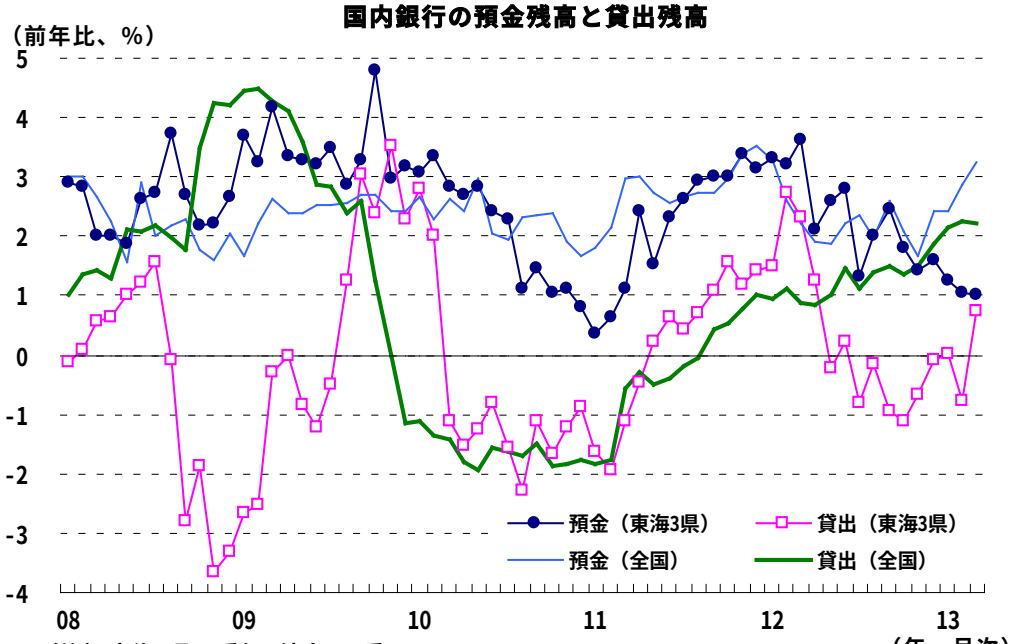


（注）東海4県＝愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）総務省「消費者物価指数」

11．金融　～預金、貸出ともに増加

○3 月の東海 3 県の預金残高（国内銀行ベース）は、企業が手元資金を取り崩しているものの、個人預金が堅調に推移し、前年比＋1.0%と増加した。一方、貸出残高（国内銀行ベース）も同＋0.7%と増加に転じた。設備投資は慎重な動きが続いているが、今後は、堅調な自動車生産に伴って企業の運転資金需要が徐々に高まるとみられ、貸出水準は低いながらも増加基調で推移する可能性が高い。

国内銀行の預金残高と貸出残高

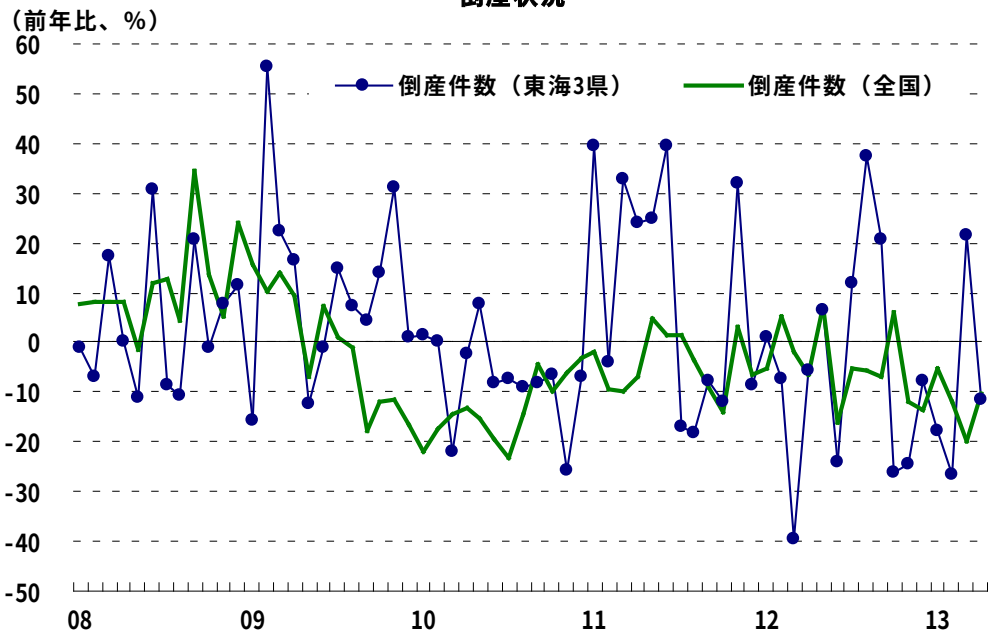


（注）東海3県＝愛知、岐阜、三重。
（出所）日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金（国内銀行）」

12．倒産　～倒産件数、負債総額ともに減少

○4 月の東海 3 県の倒産件数は、前年比－11.3%の 86 件と 2 ヶ月ぶりに前年を下回った。岐阜県（前年比＋60.0%）で増加したものの、愛知県（同－23.0%）で減少し、三重県（同＋0.0%）は横ばいだった。東海 3 県の負債総額は、同－55.7%の 168 億円と 2 ヶ月連続で減少している。3 月末の中小企業金融円滑化法の終了で倒産件数の増加が懸念されていたが、目立った影響は見られなかった。

倒産状況



（注）東海3県＝愛知、岐阜、三重。
（出所）東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	→	曇	↗	輸出	全国	↗	曇	↗
	東海	↗	曇	↗		東海	↗	曇	↗
	関西	→	小雨	↗		関西	↘	小雨	→
個人消費	全国	↗	曇	↗	輸入	全国	↗	曇	→
	東海	→	曇	→		東海	→	曇	→
	関西	↗	曇	↗		関西	→	曇	→
住宅投資	全国	↗	曇	↗	生産	全国	↗	雨	→
	東海	→	小雨	↗		東海	↗	薄日	→
	関西	→	曇	→		関西	↗	小雨	↗
設備投資	全国	↘	曇	↗	雇用	全国	↗	曇	↗
	東海	→	曇	→		東海	→	曇	→
	関西	→	小雨	→		関西	→	曇	↗
公共投資	全国	↗	曇	↗	賃金	全国	↘	雨	↘
	東海	↗	雨	↗		東海	→	薄日	↗
	関西	↘	雨	↗		関西	↘	雨	→

：晴れ　：薄日　：曇り　：小雨　：雨

（注）１．3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
２．シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
３．全国は5月2日時点の予報。

【各項目のヘッドライン】

項目		4月のコメント	5月のコメント
1．景気全般	全国	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
	東海	持ち直している	持ち直している
	関西	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
2．生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	増加している	増加が一服している
	関西	持ち直しつつある	持ち直しつつある
3．雇用	全国	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
4．賃金	全国	弱含んでいる	弱含んでいる
	東海	下げ止まりつつある	横ばい圏で推移
	関西	弱含んでいる	弱含んでいる
5．個人消費	全国	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	横ばい圏で推移	持ち直しの動きがみられる
6．住宅投資	全国	緩やかに増加	緩やかに増加
	東海	緩やかに持ち直している	横ばい圏で推移
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
7．設備投資	全国	弱含んでいる	弱含んでいる
	東海	増加が一服している	増加が一服している
	関西	持ち直しの動きが鈍っている	持ち直しの動きが鈍っている
8．公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加基調で推移	増加基調で推移
	関西	このところ減少している	このところ減少している
9．輸出入	全国	輸出は下げ止まっている、輸入は横ばい	輸出は持ち直しの動きがみられる、輸入は横ばい
	東海	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい
	関西	輸出はこのところ減少、輸入は横ばい	輸出は下げ止まりの動き、輸入は弱含み
10．物価	全国	国内企業物価は横ばい、消費者物価は緩やかに下落	国内企業物価は横ばい、消費者物価は緩やかに下落
	東海	消費者物価は小幅下落	消費者物価は小幅下落
	関西	消費者物価は下落	消費者物価は下落
11．金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金は増加、貸出は減少	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12．倒産	東海	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに減少

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

○レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

○3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。
○現況 ・・・・・各項目の現在の「水準」を①晴れ、②薄日、③曇り、④小雨、⑤雨の5段階に分類。
○～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が①改善、③悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

○各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

○全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。
○右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

○景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

○当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

○発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

○【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。

ご利用に際しての留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。